

<p>キャリア 教育 6 学 年</p>	<p>ね ら い</p>	<p>被災地の人々との共感的な理解を図り、思いやりの気持ちを持って、 ともに支え合いながら生きていこうとする態度を育てる。</p>
<p>【題 材】 地域の復興にかける人々の思いや願いを知り、これを全校や地域に発信しながら、自己の生き方を考える。</p>		
<p>【復興教育の視点】</p>		
<p>○ 復興・発展を目指す社会の中で、自らの役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現して行くにはどうすればよいかを考え、実践しようとするキャリア教育である。</p>		
<p>【実践の概要】</p>		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 被災地を訪問し、被災と復興の現実を児童に感じ取らせる。</li> <li>2. 被災に直面しながらも復興に携わる人から直接お話を伺い、自分たちのこれからの活動や将来の生き方を考える学習とする。</li> <li>3. 地域の未来に向けて自分たちの思いを発信することによって、思考力及び表現力を高める。</li> </ol>		
<p>【訪問学習の取組】</p>		
<p><b>期 日</b>：平成 24 年 10 月 30 日(月)</p>		
<p><b>訪問先</b>：大槌町公民館赤浜分館（旧赤浜小学校体育館）</p>		
<p><b>内 容</b>：赤浜小学校 佐々木校長先生の講話</p>		
<p><b>活動計画</b></p>		
<ol style="list-style-type: none"> <li>① 震災・津波の経験を共有する 2h             <ol style="list-style-type: none"> <li>ア 被害の様子を資料から知る。</li> <li>イ 復興へ向けた取組を調べる。</li> </ol> </li> <li>② 被災地の復興状況を知る。 7h             <ol style="list-style-type: none"> <li>ア 被災地訪問で知りたいことをまとめる。</li> <li>イ 被災地を訪問する。平成 24 年 10 月 30 日                 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 被災地の学校訪問</li> <li>(2) 質疑応答</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>③ 被災地から学んだことを共有する。 3h             <ol style="list-style-type: none"> <li>ア 被災地訪問での感想や分かったこと、自分たちができることをまとめる。</li> <li>イ まとめを全体で共有する。(参観日)</li> </ol> </li> <li>④ 自分たちで取り組む。(必要に応じて④のサイクルを繰り返す)             <ol style="list-style-type: none"> <li>ア 計画を立てる。</li> <li>イ 実践する。</li> <li>ウ 振り返りをする。</li> </ol> </li> </ol>		



赤浜小 佐々木校長先生の講話と説明



質疑応答



避難路を実際に歩く。



参観日に親子でまとめを共有する。

児童の感想から

「大槌町で見た真実」  
 今日大槌町に行つて、大きく2つのことを学びました。  
 一つ目は、「二年8ヶ月経つた今でも、まだ分かっていなかったこと」です。私は、岩手県人として被災地のことをしっかりと分かっているつもりでした。だけど、今回の勉強ですごく驚いたことがたくさんありました。まだ、こんなに知らないことがあると分かって、しっかりと学ばなければと思うことができました。特に、実際に見たことで、知らなかったことを知ることが多かったです。  
 二つ目は、「私たちにもできること」です。私たちは協力するといっても、何をすればいいのか今までは分かりませんでした。けれど、今日しっかりと話を聞いたりすることで、私たちにできることをしっかりと分かることができました。たとえば、命や友達を大切にしたり、これからの日本のために何か一つ一つできることをしたり。  
 今日学んだことをしっかりと生かして、これからの生活の一つ一つできることを採り入れていこうと思つています。私たちにできることから一つ一つ。小さいことでも一つ一つ。これをみんなが一緒になつてやれば、きっと私たちの元気が被災地の人々に届くでしょう。これからの生活もがんばります。